

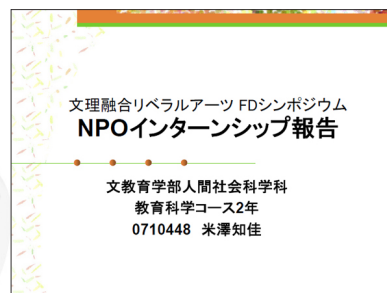
# お茶の水女子大学リベラルアーツとFD公開シンポジウム

平成 21 年 2 月 12 日 (木)

文理融合リベラルアーツ科目を受講して — 受講学生の意見 —

## 生活世界の安全保障 23「NPOインターンシップ」受講生

米澤 知佳 (文教育学部 人間社会科学科2年)



「NPOインターンシップ」を実習しておりました、文教育学部人間社会科学科教育科学コース2年の米澤です。

「NPOインターンシップ」は、ホームレスやまちづくり、環境、演劇、ワーキングマザー支援など6団体に私たち学生が半年間インターンをいたしました。そこで中間報告会や最終報告会などを経て、半年間の実習をしていました。私は「えこお」という団体にインターンしたのですが、そこは1年生と2年生合わせて4人がインターンシップをしました。そのことについてお話しします。

インターン先の「えこお」に関してなのですが、2002年に法人格を取得して、文京区に住んでいる地域住民が主体となって活動しています。私は半年間の実習期間で述べ50人近くの地域住民の方とかがかりました。

活動趣旨としては、「誰もが活き活きと生きていける街の仕組みづくり」ということで、障害のある人も子どもも大人も一緒に感動の場をつくったり、一緒に暮らしていけるまちをつくってほしいという活動をしていました。

実際、私が半年間の実習の中でどんなことをしたかというと、6月～12月までの期間で約78時間の活動をしました。規定は60時間以上ということなのですが、私を含めてほかの3人もみんなこの規定の時間をクリアして、中には100時間もやったという人もいました。

主な活動としては、筑波大学附属大塚特別支援学校と協力して、「えこお」が協力して行っているサマーキャンプでの特別支援を必要とする子どもたちの見守りや各種イベントの手伝いをしました。トヨタのロビーコンサートや知的障害のある青年のための「日曜青年講座」というものに参加しました。

このように「えこお」の活動では、地域に学校があって、そこに通っている小中高高校生、特別支援の子どもたちも含めた高校生とかかかったり、トヨタは水道橋にあるのですが、地域に勤めている企業の人々とかかわることができました。


インターンシップを通して、社会活動と実際の大学での学びとのかかわりを考えてみました。

まず、インターンシップを行う前に前期に「NPO入門」という授業を取らなくてはなりません。そこでは座学が主なのですが、理論や制度、NPOの社会的意義などを学びます。そこでは、最後には仮想NPOを自分たちで作って、NPOのビジョンやミッションというものを自分たちで考えて、最後にはそれをレポートにまとめるという作業もしました。その考え方というものが実際NPOでインターンシップするに当たって指標となりました。

また、私は教育科学コースなので、教育に関して専攻分野を持っています。そのために、座学だけでは学べない実践から見る当事者の思い、NPOで活動している方の思いや原動力を感じることを私は目標に置いていました。亀山先生などの研究者やNPOを実際に運営している実践者の両面からNPOというものを見ることができたと思っています。実際にNPOを運営している方のご苦勞を聞いたり、また、どういう思いでやっているかということも私たちは知ることができました。


### インターン先「NPO法人えこお」概要

- 2002年に法人格取得
- 文京区に住んでいる地域住民が主体となって活動 (実習期間でのべ50人近くの人と関わる)
- 活動趣旨  
「誰もが活き活きと生きていける街の仕組みづくり」 (障がいのある人も子どもも大人も一緒に)



### インターンシップ内容

- 2008年6月～12月  
78時間(規定60時間以上)
- 主な活動
  - サマーキャンプでの生徒見守り (筑波大学附属大塚特別支援学校と協力)
  - 各種イベントの手伝い (トヨタロビーコンサート、知的障がいのある青年のための「日曜青年講座」)



### インターンシップを通して、社会活動と大学の学びとの関わり

- 「NPO入門」で得たこと
  - 理論や制度、NPOの社会的意義
  - 「障がい」、「教育」に関する専攻分野
- ⇒座学だけでは学べない、実践から見る当事者の思いや原動力を感じる。
- ⇒研究者、実践者の両面からNPOの役割を知ることができた。

個人的なことなのですが、NPOインターンシップの、私自身とのかかわりというものを考えました。これを書く前に、亀山先生がNPOインターンというのは、ただの企業のインターンとは違って、自分の将来設計を考える一つの指標にしてほしいということだったので、では何なのだろうと考えたのです。私は将来、教員を志望し、小学校の教員免許を今取っている最中なのですが、その中で地域の中で子どもたちが暮らし、地域の中で育まれるというのは何だろうとか、特別支援を含みます多様な人々とかかわりあう、共生しあうというのは何だろうということの中で疑問に思っていました。また、大学で教職課程など、教育の専攻分野など、近い科目を取っていますが、知識だけではなく、実際に行動したり体験することで学べるものもあるのではないかと考えてインターンシップを行いました。

受講後は、教育や地域の現実問題、例えば特別支援が多くなってしまおうのですが、そういう人たちが卒業したら、なかなか立ち向かうのも難しいような問題というものも出てきましたし、そういう方と接することについて、「えこお」の人々からも、このように考えながら接しているのだというような新しい視点も得ることができて、さらに自分の勉強している専攻を深めたいなど考えることができました。

NPOインターンシップの特徴とその課題というものを考えました。

まず、仲間の存在というものがあります。私は4人、1年生があと3名だったのですが、その4名がとても仲良くインターンシップを行うことができましたので、自分たちが持っていた問題意識や専攻について、「将来どうのことをやりたいの?」ということまで語れるような関係になりました。

また、中間報告会や最終報告会で、ほかの団体の様子なども知ることができました。そこで、ほかの団体は今こうしているのだなど、自主的に、自分から積極的にかかわって、こういう活動をしているのだなどということも知ることができました。しかし、それが2回ぐらいしかなかったので、4回ぐらいは他団体の活動が分かるような機会、実際に顔を合わせるような機会などがあると、私たちの中でも、4人では解決できないような問題があったときに、ほかの団体はどのような苦勞を乗り越えてきたのかなというのを聞いたのかなと思いました。

また、大学と学生とNPOの三つが、情報共有がどれくらいできているのかなということがありました。私たちの仲間の中で、実際に「しんどい」とか「60時間、無理だ」ということがあったのですが、そこは私たちは励ましあいながら、何とか終わることができたのですが、もうちょっと少ない、一人という人もいたので、そういう子にとっては関係づくりというのが、大学との関係づくりやNPOとの関係づくりで悩むことがあったのではないかと思います。

また、きっかけとしてのインターンシップなのですが、取得後のかかわり方として、取得までは、まず義務感から、60時間を何とか終わらせなければという気持ちでやっているというように実際言っている子もいて、その子は60時間終わった後に「ああ、ほっとした」ということで、やっと解放されて、これから自分の本当の気持ちからかかわれるような気がするということも話していたので、難しいのですが、こなさなければという気持ちで行うのではなくて、これから、団体とのかかわり方というのも考えていきたいと思いました。

私としては、来年も「えこお」において、さらに自分の興味のある分野でかかわりあいながら関心を深めていきたいと考えています。

インターンシップなのですが、半年間終えて、実際に大学で学んだことを生かしたり、またさらに新たな視点を得たりして、とても有意義なものになりました。

**インターンシップを通して、社会活動と自分との関わり**

- 将来教員を志望
  - 一「地域」の中で暮らす、育む
  - 一「多様な人々との関わり」とは
- 大学で近い授業を取るが、知識だけではなく体験したかった。

⇒受講後、教育・地域の現実課題も見えてきたが、新しい視点も得ることができ、さらに

**NPOインターンシップの特徴**

- 仲間の存在
  - 一問題意識、専攻、将来に関しての展望など共通点、相違点を見出し、学び合う
- きっかけとしてのインターンシップ
  - ⇒取得後の関わり方
  - 一来年も「えこお」において興味のある分野で、さらに関心を深めたい